

◎上野殿後家尼御返事

「生々世々の間、ちぎりし夫は大海のいさごのかずよりもおおくこそおわしまし候いけん。今度のちぎりこそまことのちぎりのおとこよ。そのゆえは、おとこのすすめによりて法華經の行者とならせ給えば、仏とおがませ給うべし。
いきておわしき時は生の仏、今は死の仏、生死ともに仏なり。即身成仏と申す大事の法門これなり。」

(通解)

「生死を繰り返しゆく間に夫婦となった男性は、大海の砂の数よりも多くおられたことでしょう。そのなかで、今度の夫婦の絆こそが、真実の絆で結ばれた夫なのである。そのわけは、あなたは夫の勧めによって法華經の行者になられたからであり、それゆえ、(亡くなった夫を) 仏と拝されるべきである。
生きておられた時は生の仏、今は死の仏、生死ともに仏なのである。即身成仏という重要な法門は、このことである」

(御書新版 1832 ページ・御書全集 1504 ページ)

◎池田大作先生の指導選集〔上〕 幸福への指針

私たちの唱題も、目には見えないが毎日、自分自身を福運の大木へと育てている。十年、二十年、学会のなかで信心を貫いていけば、やがて必ず、大樹となった福運が、はっきり目にも見えるようになる。
妙法は宇宙の最高の宝である。唱題することは、毎日、わが生命に宝を積み重ねていることになる。

(『池田大作先生の指導選集〔上〕 幸福への指針』 354 ページ)

◎信仰の基本「信行学」

学べば学ぶほど、「学」が深まり、「信」も「行」も深まるのです。永遠に前進し、向上していく健気な信心の人こそ、本当の求道者として、自由自在の境涯に生ききっていける。

学会活動もそのためにあるのです。

悩みや困難に直面した時など、会合へ向かう足が重い場合もあるでしょう。しかし、そういう時こそ、仏の集いである学会の会合に足を運び、教学を学び、体験を聞くことで、生命が躍動します。信心が磨かれ、境涯を開いて、足取りも軽く前進していけるのです。

(『信仰の基本「信行学」』 83 ページ)